

令和6年度 卒業生アンケートに関する  
相互評価による指導・助言の為の  
自己評価報告書

令和7(2025)年8月  
別府大学  
別府大学・別府大学短期大学部 IR センター

◆卒業生アンケート(本学での正式名称は「卒業時における学修成果達成度調査報告書」)の活用

## 1. 事実の説明及び自己評価

【視点① 卒業予定者対象のアンケートの実施について】

### (1) 対象と実施期間

9月卒業生:令和6年7月9日～9月30日

3月卒業生:令和7年1月6日～3月19日

(参照:報告書 p.1 に記載)

学科内訳

国際言語・文化学科 95名

史学・文化財学科 97名

人間関係学科 79名

食物栄養学科 61名

発酵食品学科 25名

国際経営学科 115名 計 554名

(参照:報告書 p.2 に記載)

### (2) 調査内容

ディプロマ・ポリシーで設定されている項目に基づいて、目標がどの程度達成できたかについて下記の内容で実施した。

1. 教養に関する質問(人間性の形成に資する幅広い知識・技能)8項目
2. 専門力に関する質問(専門に関する基本的な知識・技能)2項目
3. 汎用力に関する質問(社会で活用できる汎用性のある能力)5項目
4. その他(正課外活動など)自由記述を含む9項目
5. 卒業後の連絡先に関する質問(卒業生の進路の把握や連絡の為収集)

回答方法は、e-learning システム(Moodle)を用いて、学生自身がどのような主観的達成度を感じているかについて 5 段階評価で回答してもらった。

(参照:報告書 p.1 に記載、各学科のディプロマ・ポリシー)

### (3)回答状況

回答数 444／472名

回収率 94%

(参照:報告書 p.2 に記載)

【視点② IR 業務を担当する者による分析】

分析については、各設問は Tableau を用いて集計し、自由記述についてはマイニングツールによるワードクラウドを作成した。これらの結果をもとに IR センターで分析を行い、報告書

P27～P28に取りまとめた。

回答率が94%と本学の目標の90%を超えており、改革総合支援事業「タイプ1」の「卒業時アンケート調査の実施・公表」における3点を取れる条件を満たしている。

### 学修成果達成度の概要

#### (1) 教養(幅広い知識・技能)

多くの設問で肯定的評価は80%前後と高い数値になっている。

特に(1)思考力や表現力などの基礎的素養と(4)人間と文化の探求に必要な教養に関する設問の肯定的評価は、それぞれ92%(昨年90%、一昨年88%)、85%(昨年84%、一昨年81%)であり、ここ3カ年で一番高い数値になっている。

一方、(6)科学技術と自然環境の理解に必要な教養と(8)英語の基本的リテラシーに関する設問の肯定的評価は、それぞれ67%(昨年71%、一昨年69%)、58%(昨年57%、一昨年52%)で若干の上下はあるが、相対的に低い数値に留まっている。学科間格差の是正や教育効果向上の工夫が必要と考えられる。

#### (2) 専門力(専門知識・技能)

(1)専門分野の基本的な知識や技術(2)専門分野のもつ社会的な意義ともに高い値で推移している事から、多くの学生が専門力を身につけて卒業できていると判断できる。

#### (3)汎用力(社会で活用できる能力)

全設問で80%前後の肯定的評価になっており、多くの学生が汎用力を身につけて卒業できていると判断できる。(参照:報告書 P2～45)

### 【視点③ 卒業生アンケート分析結果のフィードバック】

#### (1)教員への分析結果のフィードバック状況

教員への分析結果のフィードバックについては、卒業時における学修成果達成度調査報告書が企画運営会議、教授会で報告される。(参照:報告書に掲載なし)

#### (2)学生へのフィードバック状況

「卒業時における学修成果達成度調査報告書」をHPに掲載し、公表している。

## 2.改善・向上方策(将来計画)

#### (1)教養科目

(6)科学技術と自然環境の理解に必要な教養と(8)英語の基本的リテラシーについては満足度に低い傾向が認められた。今後は教養教育委員会を中心に学科間格差の是正と教育効果の向上を検討する。

#### (2)専門科目

各学科において分析を実施し、本学修成果達成度報告書だけでなく、学生との点検・評価会議などで取り上げられた意見も含めて、学科ごとに改善策を検討し、学内の FD 研修会にて学科長より報告をしてもらう。

### 3. 関連資料

- (1) 卒業時における学修成果達成度報告書
- (2) アセスメントポリシー
- (3) 各学科のディプロマ・ポリシー

令和 6 年度 卒業生アンケートに関する  
相互評価による指導・助言の為の  
相互評価報告書

令和 7(2025) 年 9 月  
自己評価大学：別府大学  
相互評価大学：西九州大学

## 【相互評価報告】

### 1. 総評

9月卒業生と3月卒業生を対象に、年2回「卒業時における学修成果達成度調査」を実施している。調査様式に調査目的を明示したうえで実施されており、調査項目はディプロマポリシーで設定された「教養」、「専門力」、「汎用力」に関する質問で構成され、学生の主観的達成度を調査し集計・分析が行われている。アンケート回答率は大学全体で94%と大変高く、大学が定める90%という目標を上回っている。分析結果のフィードバックについては、教員に対しては教授会等の会議において、学生に対しては大学ホームページにて公表されており、学生指導及び教育改善に活用されている。

### 2. 視点ごとの評価

#### 視点① 学生による卒業生アンケートの実施

学生はe-learningシステム(moodle)によりアンケートに回答することができ、個別に筆記回答が必要なものはプリントアウトした用紙を用いて回答している。また、9月卒業生と3月卒業生を分けて年2回調査を実施しており、全ての卒業生が調査対象となっている。調査様式には目的が明示されており、調査期間はいずれも2ヵ月以上と十分に確保されている。調査内容は「教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)に関する質問」(8項目)、「専門力(専門に関する基本的な知識、技能)に関する質問」(2項目)、「汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力)に関する質問」(5項目)、「その他(正課外活動の状況など)」(9項目)が設けられ、ディプロマポリシーに沿った形で構成されている。

#### 視点② IR業務を担当する者による分析

アンケート回答率は学科により若干のバラつきがあるものの、大学全体では目標値を上回る94%と大変高い結果であり評価できる。分析を行うためにTableau及びマイニングツールを用いており、項目ごとに大変丁寧な分析が行われている。また、ほとんどの設問項目で前年度と前々年度を上回る達成判定となっており、改善が見られる。

#### 視点③ 卒業生アンケート分析結果のフィードバック

教員に対しては、「卒業時における学修成果達成度調査報告書」が企画運営会議及び教授会にてフィードバックされている。学生に対しては、同報告書を公式ホームページの情報公開ページに掲載し公表されている。また、ホームページには過去7年分の報告書が掲載されており、過去のデータと比較することが可能となっている。これは学生だけではなく、教職員や一般の方に向けてもオープンになっている。以上のことから、分析結果のフィードバックは適切に行われていると言える。

上記のとおり、評価しましたので、報告します。

令和7年9月19日

評価者：学校法人永原学園 IR室 室長 福元健志